

概要

「ちいき新聞」は、1エリア3万世帯前後という小さなコミュニティに向けて、手配り式フリーペーパーという形式で読者に地域情報を発信。地域住民である消費者が良い情報に出会い、飲食・物販・サービスなどを営む地域企業が成長することで、好循環を生み出し、地域を活性させることが目的。週1回発行。単独のポスティングにこだわり、到達率は平均で90%を超える。

評価された点

- ・継続した地道な活動であり、この事業が株式会社の事業として成り立っていることが大きな成果であり、地域あつての根本的な事例として評価すべきである。
- ・地道な取り組みで、出ては消える「フリーペーパー」とは一線を画している。地域での情報流通は地域の誇りを持つ上でも重要であり、地道な取り組みに敬意を表したい。
- ・「一度は行きたい、経験したい」地元のいいところランキングをはじめ、地域住民に自分たちの住む地域の魅力を再発見させる情報満載で、まさにその名のとおり、“地域の地域による地域のための”情報ツールとなっている。この30年で2万部から200万部にまで発行部数を伸ばしており、その継続性も高く評価される。



概要

地域住民が立ち上がり、自治会等関係諸団体に呼び掛け、川の自然環境を取り戻し川を生かしたまちづくりをめざし、川の清掃や、鮎の放流、桜の植樹、水質・生態調査や観察会、地域の環境・歴史マップづくりなどに取り組んでいる。こうした活動に地域の小中学生も参加し、環境やまちづくりへの理解を深め、次世代を担う子ども達を育てる場ともなっている。

評価された点

- ・都市部での地域活動として、さまざまなプログラムを用意して多くの住民が参加できるように工夫した。また小中学生の参加も継続しており、今後の活動に期待できる。
- ・流域連携は防災意識の醸成に有効。全国で取り組める好事例。
- ・地域住民が主体的に勉強会を重ねながら行っている。平瀬川の自然環境を守る様々な活動は、年々参加者も増加し、持続可能なまちづくりに大きく貢献している。また、地域の子もたちも参加することで、次世代を担う人材育成を行っている点も高く評価。

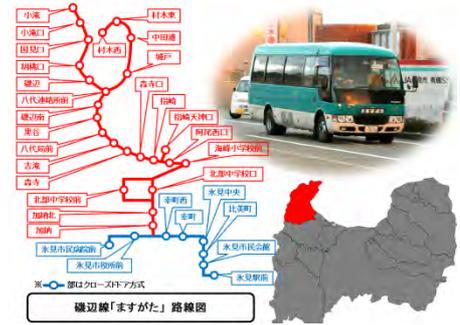


概要

高齢化と人口減少による民間事業者の路線バスの廃止、市営バスの見直しを機に地域住民の交通手段確保と環境を守り、元気で魅力ある地域づくりに寄与することを目的に、NPO法人八代地域活性化協議会を設立し、無線システムを活用した環境パトロールとコミュニティバスの運行を行っている。

評価された点

- ・過疎化と高齢化が進む地域の消滅を避けるためにも住民の足を確保することが必須である。無線システムを活用したコミュニティバスの運行は和製ウーバーであり、高齢者の見守りや社会参加をはじめ、これからの地域づくりの一つのあり方として注目される。
- ・公共交通を利用し、外出の機会を増やしていくことは、必須でありながら、なかなか安定した経営と結びつかず、地域づくりとしての悩ましき課題が大きい中で、利用度を高めるための様々な工夫を実践されている。特に人が寄り合うための知恵等を合わせて、ハードとソフトの手法を評価。
- ・コミュニティバスが単なる交通手段ではなく、「走る公民館」として地域住民にとっての交流の場となり、家に閉じこもりがちなお年寄りの外出機会増加につながっている点が注目される。無線システムを使った外出補助、運転手を地域内からの雇用など地域住民が一体となってバス運営に取り組み、継続させている点も高く評価。



特定非営利活動法人能登ネットワーク

概要

能登一円の有志が集まり、前身の団体を発足させ、能登の可能性を検討する組織として設立。能登空港が開港する年に現法人として法人化した。能登半島と首都圏をつなぐ取組として、東京・銀座での「居酒屋のとだらぼち」の開業をはじめ、都内からの地酒列車運行等、様々な企画を実施。近年は、能登の食の魅力を語り部と共に東京に出前する「東京DEMAE能登半島」などを実施。

評価された点

- ・能登空港の開設や新幹線の開通を積極的に捉えながらも、多くの地域消滅市町を抱える能登地区にあって、能登の可能性を広域的に検討する組織を設立し活動していることを評価。
- ・北陸新幹線等の話題が集まる一方で、「人が出て行く」勢いも加速している能登半島。豊かな資源を再認識し、理解者を広げて確実で安定的な地域の仕事づくりに結びつけようとしている点を評価。
- ・地域と都会（東京）を繋ぎ、交流を促進する好事例。
- ・首都圏に能登の魅力を発信するために、居酒屋を開店し能登地酒列車を運行している。単に情報発信を行うだけでなく、能登空港の利用促進、能登への訪問を増やすことを目指しているところがユニーク。
- ・域内での活動にとどまらず、東京への出店など意欲的で本気さを感じる。



## 概要

長野県北部地震の被害が大きく、世帯数も減少。「このままでは集落が消滅してしまう。みんながふるさとで人生最後まで暮らせるようにしたい」この思いから「小滝復興プロジェクトチーム」を結成、復旧・復興活動を展開。集落独自の震災復興計画を策定し、「300年後に集落を引き継ぐ」という夢とロマンを掲げ復興に向かって歩み始め、揺るがない集落づくりをするため集落ぐるみの法人も設立。

## 評価された点

- ・過疎高齢化・震災からの復興という地域の抱える課題に取り組んでいる事例である。
- ・災害はどのまちにも起こりうる。災害を契機に積極的な地域づくりを展開している集落は是非応援したい。集落全戸での合同会社設立など面白い。
- ・災い転じて福となつてほしい。素朴な取り組みだが、命をかけて助け合って、また新たな道を切り開く努力は美しい。
- ・行政に頼ることなく、自ら地域の復興計画を策定し、地域の特性を生かした事業に取り組んでいる。小学生から高齢者まで全員の思いを拾い上げ、村民一体となって前へ一歩を進めようとしている点、300年後の集落の将来ビジョンというスケールの大きさが素晴らしい。集落ぐるみの法人も設立し、責任を持って事業を継続しようとしている点も評価。



## 概要

身近な森林の課題を自分たちの力で解決するために設立。間伐材を森林所有者から一般的な取引価格よりも高値で買い取りし、地元企業と連携協力して付加価値の高い紙・木製品等の企画・販売など、森を介して「経済（お金）」と「人」と「心」をつなぎ、地域の経済循環の創出につながる取組みを展開。また、他にも、企業・消費者が森づくりに参加できるような仕組みづくりにも取り組んでいる。

## 評価された点

- ・近年の林業の低迷は深刻さを増すばかり。そんな中であって新たな展開を行い森、お金、人、森林の経済循環が生まれていることは評価できる。
- ・地域の大きな課題に着目し、積極的な解決を地元からの発信で経済活動にまでいたる仕組みを作っている点は秀逸であり、同様課題を抱える地域にとっての参考となる。
- ・他の林産地域でも取り入れ可能な事例。
- ・行政の補助金に依存することなく、民間だけで間伐材の買い取りを行い、人と環境と経済のバランスをうまくとりながら、経済循環を持続可能に行っている点は他地域のモデルとなる取組みである。
- ・地域の間伐材買取の仕組みを完成させ、かつセンスあふれる商品化を展開する取組みは秀逸。持続可能性を追求する地域の取組みとして、注目に値する。



概要

平成18年2月の市町合併を機に、「地域のことは地域で解決する」という機運が高まり、住民主体の地域づくり協議会を平成19年3月市内で最も早く設立した。同年、慶応大学やMITとのワークショップをきっかけに、毎年、過疎化や少子高齢化などの地域課題の解決を目指した大学との取組がはじまった。近年は企業も加わり、ますます活動が多岐にわたるとともに、年々活発化してきている。

評価された点

- ・国内外の大学と一般企業との連携の好事例。
- ・ホームステイの受け入れにとどまらず、学生の発想を活用し、ともにイベントを計画するなどの取組みは独創的である。また、地域として受け入れていることで、地域全体に愛着と誇りが醸成されている。
- ・合併によってアイデンティティーを失わず、協力し合う姿勢が素敵。また、外部との助け合いのなかで新たな発展をすることはもっと期待できる。
- ・国内外の大学との協働により、地域の課題解決に向けた新たなプロジェクトを次々に生み出しているところが面白い。大学生の斬新なアイデアを企業の協力も得ながら具現化しており、今後、どんな新たなコラボレーションが生まれるのか、さらなる展開に期待したい。



かみかわ田舎暮らし推進協会

概要

高齢化・過疎化により増加し続ける空き家を「地域の宝」として捉え、田舎暮らしをしたい都市住民のニーズに応えるべく移住施策を推進。神河町が進める空き家バンク事業の側方支援として、田舎暮らし体験施設や地域交流施設としてリノベーションするなど空き家の利活用を推進しており、地域交流施設は町の活性化に繋がっている。

評価された点

- ・空き家を課題ではなく資源ととらえ、リノベーション事業を進め、交流人口と定住人口に寄与してきた。
- ・空き家対策の一つの範となる取り組み。空き家を資源と再認識し、空き家活用セミナーやチャレンジショップ、空き家再生講習会などのソフト事業を駆使し、都市住民との交流を果たし、実績をあげている。このような、地域の人々を広く巻き込んだアプローチはこれからの対策の参考になる。
- ・専門学校とのタイアップ等、地域外部との協力により新しい可能性が湧き出している。



概要

当団体は、貴重な動植物が生息する西中国山地を中心に、その適正な保全に資するための研究活動を長年にわたって実施しており、保全事業のひとつである「芸北せどやま再生事業」は、山の持主自身に山の手入れをしてもらい、切った木を「せどやま市場」が買い上げるというもので、「せどやま券」という地域通貨で対価を支払い、山で稼いだお金が地域内で循環し地域経済を活性化させる仕組みとなっている。なお、「せどやま」とは家の裏山（＝里山）のことである。

評価された点

- ・ 森林を活用する方法として、地元での買取と地域通貨に替えながら森林を経済として循環させている仕組みには評価に値する。
- ・ 地域で放置されていた木を活用し、経済循環を生み出す仕組みにしている。
- ・ 山林里山の保全を地域通貨に結び付け、地域経済を活性化させている好事例。他地域でも取り組める可能性がある。
- ・ 放置されていた木材を活用し、地域通貨の流通を促進することで、地産地消、里山保全、地域活性化を目指す活動である。
- ・ 山を持ち主に手入れしてもらい、重さに応じて買い取り、地域通貨に変え、地域内循環させている点は、ユニークな取り組みであり、他地域のモデルとなる。
- ・ 里山の保全を地域経済循環と結びつけ、地域通貨などを通じて可視化させている取り組みは秀逸。
- ・ 山の木を地域通貨に換えることで、里山を宝の山に変えるとともに、地域の人たちにも里山の価値を伝えることができる。



特定非営利活動法人新町川を守る会

概要

徳島市内中心部のシンボルである川が、家庭排水等で汚染された状況を憂い、有志10人で会を発足し、月2回の川の清掃活動から始まった。清掃活動、川辺を中心としたイベント開催のほか、河川航路を観光資源として復活させたり、行政と連携し、護岸の維持補修等を実施したり、さらには他のNPO法人の取組支援等、環境保全の枠を超え、観光振興、まちづくり等にも多大に貢献している。

評価された点

- ・ 汚れた川を市民の手できれいに美しくしようと行政に頼らず住民主導で活動している点が高く評価できる。多くの人に共感を与えたことは素晴らしい実績である。
- ・ 長期又非常に多岐にわたる活動内容は単なる環境保全事業の枠を超えており、組織の拡大手法も参考になる。
- ・ 身近な河川を住民が自らの活動によって観光資源となるまでに至った。
- ・ 住民主導で多くの人々を巻き込み、河川の美化、航路の復活などの成果につながっている。会員数も着実に増加しており、地域イノベーションのさまざまな可能性を感じる取り組み。
- ・ 川の美化を目指して始まった活動だが、美化にとどまらず、観光資源としての河川の価値を高める先進的な取り組みとして高く評価される。



## 概要

市では、正岡子規や夏目漱石をはじめとする幾多の松山ゆかりの先人たちが残してくれた文化的土壌を活用することで、「ことばのちから」をキーワードとしたこれまでにない新しいまちづくりに取り組んでいる。同委員会では、全国から応募されたことば作品を市内に掲示する「街はことばのミュージアム」などの様々な事業を展開している。

## 評価された点

- ・そもそも地域の情報発信は「ことば」によるのであり、「ことばのちから」が強ければ強い程発信力が高まり、認知度の向上に結びつく。これ迄の地域ブランドづくりは、形ある資源をどういうことばで伝えるかが課題であったが、「ことば」そのものに目を付けた点は画期的であり、松山というまちの歴史的な背景からも「言霊」のまちづくりは相応しいと思う。
- ・世界に広がる俳句文化に対して、近年は日本語の魅力を日本人が忘れがちである。郷土の先人たちが残した地域の宝として受け継がれて来ている文学的遺伝子を、未来に繋げて頂きたい。
- ・「ことばのちから」をキーワードに町づくりを進めているのは、文化のまち松山らしさが表れており、ユニーク。
- ・「ことば」を地域資源として捉え、着実に活動を展開しているのは秀逸。また、それらがブランディングにつながっており、評価に値する。



## 特定非営利活動法人砂浜美術館

## 高知県黒潮町

## 概要

NPO法人砂浜美術館は、まちづくり、保健、福祉、教育、文化、環境といった広範囲にわたるあらゆる地域の活性化を図る活動を、住民、行政、企業、社会貢献活動を行う団体や個人、関係機関と連携を図りながら進めることによって、人材の育成と豊かなまちづくりを行う。

## 評価された点

- ・有志の集まりから地域ならではの資源（砂浜）をベースに活動を展開している。
- ・当たり前のようにある町の自然を「宝物」として位置づけ、活用、進化させた先駆的な事例。
- ・砂浜を美術館とするTシャツアート展は独創的であり、まちのイメージブランドの構築につながっている点は、大いに参考になる事例である。
- ・「私たちのまちには美術館がありません。美しい砂丘が美術館です」というコンセプトが秀逸。そう言い切ることで、ハード中心からソフト中心に転換させ様々な取り組みを展開させている。
- ・まず何よりも、美しい砂浜を「美術館」に見立てるという発想が斬新で面白い。Tシャツアート展など、プロジェクトもユニークでとても魅力的。働く場を創出している点も評価。
- ・地域づくりの老舗。地域のさまざまな主体と協力しながら、砂浜を資源と見立てて、地域文化を発信し続けている。

